

金融広報アドバイザーとは、金融広報委員会からの委嘱を受け、各地において暮らしに身近な金融経済等に関する勉強会の講師を務めたり、生活設計の指導や金融・金銭教育などを行う金融広報活動の第一線指導者です。

金融広報 アドバイザーの 紹介

使う・貯める、 そして「差し出す」 お金の話

教員経験を活かし、家庭での子育てとお金にまつわる講演活動で活躍している南方壽巳さん。金融知識の普及に努める中であって、お金を「人のために活用する」という意識を根付かせていく活動を大切にしています。

* * *

南方さんが講演の中で毎回必ずテーマにしているのは、お金との関わり方。それは「使う」「貯める」のほかに、「差し出す」という3点です。「自分のためだけにお金を稼ぐのではなく、他人にも還元していくことが、これからの社会には必要です。お金を有効に使うという啓発活動においては、『人のために活かす』という視点も重要ではないかと思っております」と南方さんは話します。

北海道南西沖地震が起きた90年代以降、阪神淡路大震災、東日本大震災などの震災が発生し、日本で



大阪府で定年退職まで中学校教員を務める。1998年に教頭として赴任していた中学校が「金銭教育研究校」に指定されたことをきっかけに、総合的な学習の時間における金銭教育カリキュラムの策定や、小冊子「学校における金銭教育の進め方」の制作に携る。定年退職後は、そうした学校現場での経験を活かし、2009年から金融広報アドバイザーとして活躍。子どもから高齢者まで幅広い年代層に向けた講演活動を行っている。

を、人のために上手に使う」という意識の向上につなげているのだそうです。

現在、金融広報アドバイザーとして、子どもだけでなく幅広い年代に向けて講演活動を行っている南方さん。教員時代の経験を活かして、家庭での子育てとおこづかいをテーマにしたものが講演の多数を占めます。最近では親子間の金銭のやりとりだけでなく、シニア世代を対

も募金活動が日常的に行われるようになってきました。お金を自分のために使ったり貯めたりするだけでなく、困っている人のために「差し出す」ことも大切であると伝えることによって、「自分のおこづかいの一部

象とした「孫とおこづかい」もテーマに上るようになり、今後は3世代をまたがる金銭のやりとりも話題になりそうだと感じているそうです。

南方さんが教員時代に金銭教育をカリキュラムに取り入れようとし

た15年ほど前には、ちょうど大学生のカード破産が社会問題化していました。いろいろ調べていく中で、「このような問題を防ぐためには、できるだけ早い段階でのお金の教育が必要なのではないか」と考えるようになったのだと南方さんは話します。

今も、消費者問題やクレジットカードの使い方など、「知らなければ将来困ること」への人々の関心は高く、消費者を取り巻く環境も変わっていく中で、南方さん自身も「もっと消費者問題を勉強して、時代に合った『知っておいてほしいこと』を伝えていきたい」と考えています。

「お金を『使う・貯める・差し出す』ことは、ものの考え方や生き方にも関わる重要な事からの一つです。私の話が、子どもにも高齢者にも生き方について考えるきっかけとなったら嬉しいですね」と南方さんは今後の目標について語っています。

大阪府金融広報委員会
金融広報アドバイザー
南方壽巳